



「体験の風をおこそう」実行委員会 主催事業

令和4年度「ちっちゃい探検隊【特別企画】」 ～あつまれ!ちっちゃい忍者たち!～ 実施報告書

I 事業の概要

1. 期日 令和4年9月24日(土)～9月25日(日) ※1泊2日

2. ねらい

- ・親元を離れ、大自然の中で仲間と生活することを通して、自分で行動する自信をつける。
- ・班の中で自分の意見を言えたり、友だちの意見を聞いたりすることができる。
- ・友だちと力を合わせることを楽しいと感じることができる。

3. 参加者数 小学校1～3年生 35名(応募数52名)
大学生ボランティア 8名

4. 日程

9月24日(土)		9月25日(日)	
13:30	受付開始	6:30	起床
14:00	集まれ、忍者たち(出会いのつどい)	7:00	おはよう、忍者たち(朝のつどい)
14:15	拙者は〇〇なり(自己紹介) 忍者遊戯(レクリエーション)	7:30	宿舎清掃(そうじ)
15:00	忍者修行(イニシアティブゲーム)	8:00	あさげ(朝食)
16:30	宿舎指南(オリエンテーション) 荷物移動	9:00	みじたく(退所点検)
17:30	ゆうげ(夕食)	9:30	手裏剣づくり(クラフト)
19:00	暗闇遊戯(館内忍び訓練)	10:30	茶の湯【おやつ】(休憩)
20:00	湯あみ(入浴2～3ローテ) (待っている間に就寝準備)	11:30	忍者検定(仲間づくりレク)
21:30	消灯	12:30	ひるげ(昼食)
		13:30	感想記入・儀式練習
		14:15	でかした!忍者たち(別れのつどい)
		14:45	記念写真
		15:00	散!(解散)



II 実施状況

3年ぶりの小学校下学年での宿泊有りの主催事業だった。近年のコロナ禍の中で、親元を離れて宿泊することは数年なかったと思うので、子どもたちも楽しみと不安が混ざったような表情だった。しかし、学生ボランティアがやさしく出迎え、35名の子どもたちは意欲的にスタートを切ることができた。

はちまきを着用し、忍者の世界観に入り込んだ子どもたちは、船上流忍者遊戯(レクリエーション)をしたり、自己紹介カプラをしたりして、緊張がほぐれていった。学生ボランティアも一緒に楽しみ、子どもたちもどんどん楽しむ雰囲気を出せるようになっていった。

船上流忍者修行では、野外イニシアチブでみんなと協力しながら修行をクリ



アしていった。クリアした修行ごとにシールをもらったり、3つの修行を行うと忍者スタンプをもらったりすると、とてもうれしそうにしていた。

夜の暗闇修行(イニシアチブ)の時には、班の中で修行に挑戦する友達に自然と励ます言葉が増えていた。暗い中で活動する修行は新鮮で全員が満足している様子であった。

少数の学生ボランティアのおかげで、子どもたちも夜から朝まで、不安ながらも無事に過ごすことができた。

クラフトで忍者頭巾を作る時は、子どもたちの様々なアイデアに驚かされた。子どもたち同士でも、アイデアを共有したり、教えてもらったことを自分なりに工夫したりするなど、それぞれの創意工夫が素晴らしかった。

今回はおやつタイムとして、給食会から蒸した団子を提供していただいた。味は賛否両論であったが、おやつの時間として時間をとったのは子どもたちにとっても楽しみの一つとなると感じた。

最後の忍者検定(仲間づくりレクリエーション)では、仲間と協力しなければできないレクリエーションを用意したが、みんな見事に達成し、これまでの忍者スタンプをすべて集めることができ、とても満足そうであった。また、今日まで一緒に過ごした友達の写真をしおりに貼り付け、友だちと一緒に写真を見ながら楽しそうに談笑する姿も見られた。

別れのつどいでは、修行終了認定の灯(キャンドルファイヤー)の儀式を行った。師範(所長)から、それぞれの班の代表1名が修行終了認定の灯をいただき、厳かな忍者修行らしい儀式となった。最後に代表の子どもとボランティアが感想を発表し、新しく友だちができてうれしかったことや、自分自身の成長につながったことを伝えていたのがとても印象的だった。

とても名残惜しい雰囲気となったが、学生ボランティアと職員が、保護者・子どもたちを見送り、すべての日程を無事に終えることができた。



Ⅲ 総括

1. 参加者の感想(抜粋)

- ・ 友だちをつくれました。つぎはもっともっと友だちをつくってみます。
- ・ 忍者修行の全部が楽しかったです。心に残っていることは、全員で写真を撮れたことです。また泊まりたいです。
- ・ 暗闇修行の川わたりや鈴抜けの術が楽しかったです。ご飯もおいしかったです。
- ・ 忍者頭巾を作る時、すごく楽しかったです。折り紙で切り絵をした時が楽しかったです。上手にできてうれしかったです。

2. 成果

- ・ 主催の開始時間を午後にしたことで、学生と十分な打ち合わせが行えた。そして、学生自身も子どもたちとの関りの中ではっきりと目的意識を持つことができ、子どもたちが信頼して学生にかかわることができた。
- ・ 暗闇修行やおやつの時間などを新しく取り入れ、子どもたちがより楽しく忍者修行を行える仕組みを考えることができた。



- ・ 宿泊できる主催は高い人気があり、このよう場を提供できたことはとてもよかった。

2. 課題

- ・ 宿泊できる学生ボランティアの数が少なく、より安全に子どもたちを見守れる体制をとる必要がある。
- ・ 夜の活動では、より安全を意識したレクリエーションやゲームを考える必要がある。
- ・ この主催の応募は多く、このような体験を求めている方が多いと分かった。社会教育施設としてもこのような機会を増やしていく必要がある。

